

栗駒山北山腹の東部水蒸気爆発火口群の噴火年代

Radiocarbon age of the phreatic-eruption deposits from the eastern-craters at the northern flank of Kurikoma Volcano

土井 宣夫^{1*}

Nobuo Doi^{1*}

¹ 岩手大学教育学部社会科教育科

¹ Faculty of Education, Iwate University

栗駒山は完新世に山体北山腹で剣岳溶岩とゼツタ沢水蒸気爆発堆積物を噴出した。剣岳溶岩は 7,245 ~ 5,650yBP 間に少なくとも 2 回噴出した。ゼツタ沢水蒸気爆発堆積物の火口は東部、中部、西部の 3 地区とその他の地点に分布し計 47 個が確認されている(土井、2006)が、このうち西部火口群の水蒸気爆発は 7,245 ~ 3,725yBP 間に 4 回あり、その後約 3 千年の噴火休止期を経て 815yBP、120yBP、1944 年に計 3 回噴火している(土井、2012)。

今回、東部火口群のゼツタ沢水蒸気爆発堆積物を検討した結果、少なくとも 6 回の水蒸気爆発による降下火砕堆積物があることが判明した。下位から 1、2 回目の噴火年代は明らかでないが、火山灰の風化が進んでいることからある程度古い年代とみられる。下位から 3 回目(3,710yBP)と 4 回目(2,770yBP)の噴火の後、約 2 千年間の噴火休止期があり、この後歴史時代に 5 回目(730yBP)と 6 回目(145yBP)の噴火がある。

また、東部火口群と西部火口群の水蒸気爆発は類似した噴火史を示し、(1)2,770yBP 以前に 4 回ほど噴火し、(2)その後 2 ~ 3 千年程度休止した後、(3)ともに cal.AD1200 年代に噴火が再開して次に AD1744 年(西部火口群)およびその頃(東部火口群)に噴火している点が注目される。

引用文献:土井宣夫(2006)岩手の地学、no.35・36、3-39、土井宣夫(2012)日本火山学会秋季大会講演予稿集、135。

キーワード: 完新世火山活動, 水蒸気爆発, 放射性炭素年代, 栗駒火山

Keywords: Holocene volcanic activity, phreatic-eruption, radiocarbon age, Kurikoma Volcano